

1 自己評価

I 評価結果 (別冊紙)

II 分析・改善方策

- (1) 「分かる・できる」授業作りの確立を目指し、授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。
- ・学校評価(生徒)からは「わかりやすく魅力ある授業」について、肯定的な意見が 65 % であるが、授業アンケートによると、「授業が分かりやすく前向きに感じる」が 46 % である。今後は授業づくりを推進していく上で、生徒の意識の評価・分析をすることが肝要である。また、学校評価(生徒)では「相談しやすさ」「IT 環境の使用」の肯定的な意見がそれぞれ 66 %・74 % である。より安全・安心な学習環境を整備していきたい。
- (2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。
- ・各教科・学年等で様々な取組を行い家庭での学習時間は目標値を概ね達成できたものの、学校評価アンケートや授業アンケートの結果に結びついていない面がある。地域との連携などを通じて、目的意識を持つことができるよう指導に取り組んでいきたい。
 - ・土曜日や長期休業中、放課後などを利用した補習を行っている。参加者は熱心に学習に取り組んでいる。また課題研究や職場見学、福祉実習などを通して進路意識が高まっている。
 - ・社会貢献活動では、生徒アンケートからは良い結果が出ているものの、今年度はコロナ禍にあり満足に活動ができなかった。来年度以降はコロナウイルス終息に伴い、こうした活動も積極的にできるものと考えている。
- (3) 生徒と向き合う時間の確保のため、確実に業務を遂行するとともに、業務のスリム化・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。
- ・働き方改革に向けたスローガンを職員室等に掲示し、意識の高揚に向けた取組を展開したことで、教職員の気運が高まった。
 - ・スケジュール管理とともに昨年の反省を生かしながらブラッシュアップを随時行ってきた。今後も進めていきたい。

2 学校関係者評価委員会

開催日 令和3年2月25日(木)
構成員 荒木 陽子 (ゑびすや荒木旅館女将) 三木 澄代 (関西福祉大学)
梶原 朋司 (元備前中学校校長、国立吉備少年自然の家企画指導専門員)
藪井真由美 (本校PTA副会長) 亀川 明史 (備前ライオンズクラブ理事)

3 学校関係者評価

- ・びぜんのまち活性化プロジェクト(地域学)の進め方において、地域貢献となる取り組みを経験した生徒と、そうでない生徒との違いを調査してはどうか、という意見をいただいた。自己効力感、自己有用感などについて。
- ・学校のPR活動において、動画やYoutubeを活用した発信についてご提案いただいた。そうしたことに生徒が関わることのできる部やクラブ活動、また近隣高校との交流についてご意見をいただいた。
- ・校内の様々な取り組みについて、直接関わっていない生徒にも情報が共有できる仕組みづくりについてご意見をいただいた。市役所に協力していただいたの庁舎内での動画上映など。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- ・自己理解を進め、自己肯定感をさらに高めるための主体的な活動の場として、地域学などと連携を図りながらの具体的な取り組みを進める。
- ・学習習慣の定着と目標を持って努力する生徒を増やすため、大学や入試について細やかな説明の機会(生徒・保護者ともに)を計画する。
- ・1人1台端末の整備によりICT機器の活用を考えるとともに、地域や保護者等に向けて本校の魅力発信や情報発信をより積極的に進めていく。

令和2年度「具体的な学校経営目標・計画」

岡山県立備前緑陽高等学校

(1) 「分ける・できる」授業づくりの確立を目指す。授業力の一層の向上に向けた取組を推進して、生徒の学習意欲を喚起するとともに、安全で安心な学習環境を整備する。		岡山の現状	
担当	具体的な方策	達成数値	最終達成状況(2月5日時点)
教務課	・生徒の学習意欲を喚起するため、授業力アップに取り組み、授業公開や授業アンケート等の振り返りを活用し、より魅力ある授業づくりを取り組む。そのため、研修等により授業力アップの意識の向上を図るとともに、OJT(授業力アップ)チームと連携し、個々の教職員の質の向上を目指す。	・前期と後期の授業アンケートと比較し、後期の予定評価が前期を上回る。	・10月授業力向上教員研修(11月相互授業参観(2回目)を実施。1月後期授業アンケートを実施。授業観摩、目標管理、流しの授業でややく、心を下げた。(2年次生)が目標)が、逆の授業の振り返りは減少した。
生活課	・全校生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。 ・教員側から生徒の手本になるあいさつをつくる。	・ほぼ全員(95%以上)の生徒が、元気な声で心のこもった気持ちの良いあいさつができるようになる。	・多くの生徒は挨拶の心(挨拶)を返してくれるが、「ほぼ全員」とまではいかなかった。教員が先ず挨拶をこなさう中、主体的に挨拶ができる生徒が増えるようにしたい。
生活課(厚生)	・校内の施設・設備を通じて安全で安心な環境を整える。ロッカー(特に男子)の美化、全員清掃の徹底・掃除器具庫の整備を行うとともに、校内OJT(安心・安全な学校づくり)チームと連携し、具体的な取組を推進する。	・安全点検が確実に実施され、整備が必要な箇所が減少する。	・年度当初のロッカー(特に男子)は昨年と変わらず美化の低下が見られたがOJTの取組等で改善することができている。 ・校内OJTチームと連携し校内の安全について検討を行った。生徒に対してリモートチェック制についてアンケートを実施した。
進路課	・「分ける・できる」授業づくりを目的に進路希望に応じたゼミ、補習などを実施し、学習習慣の育成と学力の向上を図る。 ・個々と学力により家庭での学習時間を増加させる。また基礎力診断テスト結果に基づき、学習課題等に応じた学習課題に取り組みさせる。そして進路希望との取組対策補習等を実施し、学力と面接力を育成する。	・学習時間調査の平均学習時間が前年度の全校平均より増加する。 ・国立大入学に生徒が合格。 ・就職希望内定率を卒業までに100%達成。	・2学期末の学習実態調査 H31 R2 1年:1,62h → 1,68h 2年:1,64h → 1,45h ※3年生は未実施。1年生で学習時間がやや増加。 ・国立大は現在2名、就職状況98%(41名:うち4名が公務員)。
ひげんのまち 活性化プロジェクト推進室	・探究活動を行うフィールドである備前市との連携を密にし、生徒の興味関心が広がるよう、講演会や備前市内探究活動を開催し、備前市及び各種団体との協力関係を構築する。 ・校内OJT(地域連携推進)チームと連携し、新たな取組のアイデアを数多く集め、実現に向けた検討を行う。	・備前市及び各種団体による講演会や説明会、職場訪問などへの参加生徒数が増加する。 ・生徒への事前事後アンケートを実施し、備前市への興味関心や意の興味関心、備前市への意識(70%以上)、「備前市への定住、就業」で30%以上となる。(※本校に籍在生徒の約7割が備前市在住) ・高校卒業後(および上級学校卒業後)、備前市への就職を希望する生徒数の増加、または備前市務業の雇用に採用される。	・講演会を6回実施、職場訪問、インターンシップでの代替として、備前市各所へ依頼して実習(前工芸講師、井上病院等)2年生アンケート実施(6/15) (将来備前市に住みたい(住み続けたい)で「すか?13.7%住みたい(住み続けたい)フィールドワークinひげん(8/19)実施、短期探検活動を実施、備前市職員採用試験に1名が合格。

(2) 教育活動全般や地域連携活動を通して人間力の育成を図るとともに、生徒の主体的な活動を支援する。		岡山の現状	
担当	具体的な方策	達成数値	最終達成状況(2月5日時点)
教務課	・緑陽型学習指導のスタンダードを基に授業の「ねらい」を明確化し「振り返り」を常に行い、生徒の「振り返り」に寄り添った授業を展開する。 ・総合的な学習の時間に活用できる資料を整え、生徒の主体的な活動を支援する。また小論文、面接・大学入試等の参考書を整備する。	・授業アンケートにおける「緑陽型学習スタンダード」に関連する項目が昨年度より向上する。 ・開始日を図書室便りで周知し、放課後や定休日を自主学習でも活用してもらえようとする。	・OJTによる7/7-11活動により、緑陽型学習指導のスタンダードの「まとめ振り返り」の活動がやや多いことが判明。10/28に、「振り返り」についての教員研修を実施した。 ・図書便りでは毎月開館日を知り、OJTの最新化により資料検索が容易になった。総合的な学習の時間に活用できる7/7-11で課題研究以外の資料が充実。
広域情報課	・人間力(思いやり)の心やコミュニケーション能力が育つ社会貢献・地域連携活動を推進し、生徒の主体的な進路選択の二期として、内容の精選を図る。進路選択と連携しながら、進路選択の参考となる社会貢献活動を実施する。またインターンシップ隊と連携する。	・社会貢献活動におけるアンケートによる各項目が昨年度より高くなる。 ・チャイルド前着席が100%できるようになる。	・社会貢献等の活動については、新型コロナウイルスの影響でほとんど実施できなかった。また来年度春の大型ボランティア中止の連絡がすでに来ているなど、今後も影響は出ている。 ・多くの生徒はできていない強制的な呼びかけなければ難しい状況がある。集団として、自らの考えや行動から主体性を養えるようにしていきたい。
生活課	・各自でチャイルド前着席ができるようになる。教員が促す前に生徒自ら行動できる集団を作る。自分で考えて行動できる集団作りにより、主体性を養うことで落ち着いた環境を整える。	・アセスメントチェックにおいて、学校適応感や自己肯定感の数値が高い生徒の割合が昨年より増加する。 ・教育相談室の利用が活性化(昨年度 相談室利用 生徒の人数51名)	・新型コロナウイルス感染症の影響もあり1-checkは今年度実施となった。 ・教育相談室の利用はのべ66名である(2/6現在)。今年度は年度末までに70%が利用する予定。
教育相談	・教職員・保護者・SSC・SSWが連携を取りながら、いろいろな立場で生徒と関わり、生徒をサポートし、安全安心な環境を整える。 ・学校生活に関するアンケートや心理検査(1-check)を各学年で2回実施し、生徒の学校適応への適応感や心理状態を把握し、指導を生かしていく。		
進路課	・Bプロジェクト(総合的な探求の学習)「産業社会と人間」などの授業、および広域情報課と連携する中で、キャリア教育、地域連携活動、社会貢献活動を推進することで、進路意識を高め、早い時期から進路自覚の醸成を図る。併せて、表見功、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。インターンシップ、学校見学、職場見学などの社会体験活動へ生徒を参加を推進する。	・インターンシップ等への参加率が前年度から上昇する。(R1: 72.7%)	・高校生会議(29人)、備前市振興計画審議会(定131名)・職歴概要(本校に集まらる)。(10名) (10名) (41人のべ1人、5社)である。 ・3年生の「総合的な学習の時間」については、積極的に参加できている。合計17名(98%)の参加。
ひげんのまち 活性化プロジェクト推進室	・「ひげんみらい学(総括)」「総合的な学習の時間」「産業社会と人間」の授業の中で、キャリア教育、社会体験活動を推進することで、表見功、コミュニケーション力をさらに向上させるとともに社会人としての良識を身につけさせる。課題研究、グループ研究活動と備前市各種団体との交流活動を充実させ、学校見学、職場見学などの社会体験活動への参加を推進する。		・新型コロナウイルス感染症の影響で交流件数は増加していない。 ・3年生の「総合的な学習の時間」の報告会を7月に実施し、備前市長をはじめ、市議員等23名の来校があった。 ・「未来への10&11グループ」～備前市職場訪問」の代替として、片上認定子ども園、備前市工芸講師、備前市立病院へ訪問し、講演会を実施。 ・高校生会議への参加(39名)に加え、備前市振興計画審議会にも4名の生徒が参加した。

(3) 生徒と向き合う時間の確保のため、確実に業務を遂行するとともに、業務の工夫・効率化及び時間管理意識の高揚を推進し、実践する。		岡山の現状	
担当	具体的な方策	達成数値	最終達成状況(2月5日時点)
全体	・働き方改革の推進を高め、具体的に業務を進めるとともに個人の時間管理意識を向上させる。校内OJT(働き方改善推進)チームを活用し、具体的な取組のアイデアを集めるなど、教職員自ら「働き方改善」を推進する意識を醸成する。	・社会貢献活動がイベント(11/27)で、1年次:4ボイス以上以上が70%、2年次:10ボイス以上以上が80%、3年次:10ボイス以上以上が100%。 ・月当たりの時間外業務時間の平均が昨年度より減少する。(R1:14.9時間)。 ・繁忙期(入試等)を除き、120分単位で実施される。 ・時間外業務時間の上限(15分/月)が達成されている。	・新型コロナウイルス感染症の影響で2月5日時点、1月あたり約500分以内業務時間業務を行った状況がある。複数名が時間外業務時間の上限(15分/月)を超えている。
各課・室	・共有の設備を整理し、業務を計画し、正確な分掌業務の実行を目指す。 ・過去7ヶ月の業務を振り返り、リーダーの模範や共有の取組を共有できるようにする。	・年間を通じて、各分掌業務の効率化が進み、業務の精選・効率化が図られ、作業内容が減少する。各分掌の作業内容について、各係主任を中心に相互点検され改善が見える化される。	・各課において、「あ・ま・か・ぶ・た」により整理された内容について、業務の効率化に大きく寄与した。また学校評価について、OJTチームの中心において、岡山県職員申請サービスを利用する。また学校評価において、実施及び集計にClassiを利用する。
広域情報課	・業務のシステム化を目指し、手間のかかる業務に代替性の高いシステムを利用して効率化を図る。オンラインシステムの中心において、岡山県職員申請サービスに業務を移行する。	・時間外業務時間が減少するなど、業務が効率化する。	・新型コロナウイルス感染症の中心において、OJTチームの中心において、岡山県職員申請サービスに業務を移行する。また学校評価において、実施及び集計にClassiを利用する。
生活課・学生団体	・会議の開催及び会議時間の短縮を図るとともに、各クラス、学年集会、全校集会等で規範意識の重要性を認識させることで各指導の減少を図り、スムーズに業務を遂行する。	・学校評価Q12「社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身につくように指導してくれている」で肯定的な回答が昨年度を上回る。(R1: 88%)	・新型コロナウイルス感染症の中心において、OJTチームの中心において、岡山県職員申請サービスに業務を移行する。また学校評価において、実施及び集計にClassiを利用する。
部活動	・「部活動の在り方」に関する方針を踏まえ、各々が適切に休養を確保し、計画的に活動する。	・各月の実施計画に基づき、各々が計画的に活動している。	・活動計画に基いた適切な運営の確保を行うとともに、時間外業務時間の多い職員に対する個別面談を実施している。

令和2年度 学校評価 (生徒)

全く当てはまらない→1 あまり当てはまらない→2 やや当てはまる→3 よく当てはまる→4

評価項目	回答 (%)				あてはまらない	あまり	やや	よくあてはまる
	1	2	3	4				
2 家庭での学習は定着している。	26	37	32	5				
3 進路決定に向けて先生方は情報を提供してくれたり、相談にのってくれるなど、きめ細かく指導してくれている。	2	10	53	35				
4 科目選択に関してか げ り が 充 実 して いる。	3	11	64	22				
5 各種の資格・検定の受験率や合格率向上のための指導を十分してくれている。	2	12	50	36				
6 授業の中でコンピュータやビデオなどの情報機器や視聴覚機器がよく使用されている。	4	22	52	22				
7 内容がわかりやすく魅力ある授業が多い。	5	30	52	13				
8 学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や生徒の努力なども含めて行われている。	2	7	54	37				
9 学校で地震や火災などの災害が起こった場合、どのように行動すれば良いか知らされている。	11	32	39	19				
10 学校の施設・設備は授業や学校生活がしやすいよう整備されている。	10	34	44	12				
11 地域の人は学校に関心を持っていると感じることが多い。	4	28	52	17				
12 社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう先生は指導してくれている。	2	9	52	37				
13 学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	4	12	47	37				
14 学校生活に関する指導方針や指導方法について納得できる。	9	25	49	17				
15 先生に悩みや相談がしやすい雰囲気がある。	7	26	46	20				
16 先生は自分たちの意見を大切にしてくれていると感じる。	5	17	52	26				
17 学校の部活動は活発である。	4	17	51	28				
18 人権の大切さを学び、それが日常生活に生かされている。	2	12	62	24				
19 感動できる学校行事があり、楽しく参加できるよう工夫されている。	4	19	55	22				
20 科目選択は興味、関心、適正、進路希望に応じて選択できるようにしてくれている。	2	10	60	28				
21 LHRの時間をクラスづくりなどに有効に利用している。	4	15	58	23				
22 特色のある学校を目指していると感じる。	5	22	53	20				
23 総合学科の生徒として自ら考え行動できるようになった。	3	16	62	19				
24 緑陽生として誇りを持っている。	9	24	48	18				



令和2年度 学校評価 (保護者)

全く当てはまらない→1 あまり当てはまらない→2 やや当てはまる→3 よく当てはまる→4

	評価項目	回答(%)				割合			
		1	2	3	4	あてはまらない	あまり	やや	よくあてはまる
1	子どもの家庭での学習は定着している。	6	44	41	8	92%	8%	0%	0%
2	進路決定に向けて情報を提供してくれたり相談にのってくれるなど、きめ細かい指導がなされている。	3	26	48	23	77%	23%	0%	0%
3	科目選択の担任による面談や相談は、きめ細かく行われていると感じる。	5	29	44	22	75%	25%	0%	0%
4	子どもは授業の内容を理解しているようだ。	3	28	58	11	89%	11%	0%	0%
5	学習の評価はテストの得点だけでなく、授業態度や子どもの努力なども含めて行われている。	1	10	58	32	88%	12%	0%	0%
6	生活面はもちろん、施設や設備面も含め、子どもを安心して任せられる学校である。	1	14	51	33	86%	14%	0%	0%
7	子どもの出欠や学習状況など学校生活について家庭への連絡がよくなされている。	3	26	49	22	81%	19%	0%	0%
8	学校は家庭からの連絡や相談に適切に対応している。	1	14	54	31	85%	15%	0%	0%
9	保護者面談は回数、質ともに満足できる。	3	16	50	31	81%	19%	0%	0%
10	保護者や地域の人が積極的に参加できるように学校行事を工夫している。	5	24	55	15	85%	15%	0%	0%
11	保護者は学校に関心を持っていると感じることが多い。	4	39	46	12	86%	14%	0%	0%
12	学校はPTA活動に対して支援・促進に努めている。	3	25	57	14	83%	17%	0%	0%
13	社会のルールや日常生活のマナーといった基本的な生活習慣が身に付くよう学校は指導している。	1	11	57	32	88%	12%	0%	0%
14	学校は奉仕活動やボランティア活動などに積極的に取り組んでいる。	1	10	55	34	85%	15%	0%	0%
15	学校の生徒指導方針に共感、理解できる。	5	16	56	23	81%	19%	0%	0%
16	教員は、子どもの相談、質問等に的確に対応している。	2	16	57	24	83%	17%	0%	0%
17	教員は、子どもの多様な意見を大切にしている。	4	21	56	19	80%	20%	0%	0%
18	学校の部活動は活発である。	3	24	48	25	77%	23%	0%	0%
19	学校は全ての教育活動について生徒の人権を尊重する姿勢で教育にあたっている。	3	17	58	22	83%	17%	0%	0%
20	楽しく参加できるよう、学校行事は工夫されている。	2	19	59	21	82%	18%	0%	0%
21	選択科目は興味、関心、適性、進路希望に応じて選択できるようになっている。	2	11	54	33	83%	17%	0%	0%
22	特色のある学校を目指していると感じる。	4	19	49	28	77%	23%	0%	0%
23	子どもは高校生として自ら考え行動できるようになっている。	1	12	65	22	87%	13%	0%	0%
24	子どもは備前緑陽高校の生徒として誇りをもっている。	6	21	54	19	80%	20%	0%	0%

